

## 10代のタミフルの使用制限が解除されました！

平成30年8月、タミフルの10歳代への使用制限が解除されました。10年間の厚労省の調査結果から、インフルエンザ罹患時の異常行動は、薬の種類や服用の有無に関係なく発現するということが明らかになったためです。タミフルを含むすべての抗インフルエンザ薬について、服用中のお子さんを自宅療養する場合には、異常行動が出現することがあるとの注意喚起はこれまで通り継続しています。特に異常行動は小学生、中学生の男児に出やすい傾向があるようです。

厚労省はインフルエンザ発症（発熱）から2日間は、転落等の事故防止のため以下の対策をとるように指導しています。



### 事故防止の具体的対策

- ①すべての部屋の窓と玄関を確実に施錠する。
- ②ベランダに面していない部屋で寝かせる。
- ③格子付きの窓のある部屋で寝かせる。
- ④一戸建ての場合はできる限り1階で寝かせる。



## ※今治市でも年明けからインフルエンザの流行の兆しがみられます！

病児保育室では、病気のお子さんと1対1で関わる保育が主になっています。保育士は、お子さんの「病気の時でも遊びたい」という気持ちを大切に、「一人ひとりのお子さんの発達に合った保育をしたい」という思いで

白石正久著 「**子どものねがい** **子どものなやみ**」

乳幼児の発達と子育て

の本をもとに、発達の勉強をしています。



### 新生児期

- 視力 0.01~0.02 白黒の区別
- 味覚 甘味とうま味
- 嗅覚 お母さんの母乳と他人の母乳の区別
- 聴覚・触覚

生まれた子どもたちが、どういう思いをもって発達していくのか？  
今後シリーズ化して紹介したいと思います。

## 12月のご利用状況

12月の利用延べ人数は51名、一日平均利用人数は3.1人でした。年齢別では、1歳児が18名(35%)で最も多く、次いで2歳児8名(16%)、3歳児の7名(14%)の順でした。疾患別では、発熱を主症状とする急性上気道炎が27名(53%)で最も多く、次いで感染性胃腸炎10名(20%)、アデノウイルス感染症8名(16%)の順でした。なおインフルエンザによる入室はありませんでした。